



三月八日、昨年の十一月と十二月、地区内六ヶ所で行った「防災まちあるき・マップづくり」と、アンケート結果の報告会を開催しました。

まちあるきの参加者合計は七十四人。「大雨の際に崖崩れや土石流によって自宅が壊される」、「家族で避難場所や避難経路を確認し合っている」と答えた方が半分以上と防災意識の低いことがわかりました。また、「非常時の連絡方法を普段から確認しあっている」方も六割程度でした。



阿用川の下流部と上流部では防災意識が違っています。「自治会内の危険箇所について確認している」の項目では、清久上と清久下では十三人中十一人が確認していると回答。掛屋、三峠、柿の本では二十三人中十人が確認していると回答。

今回の報告会では、自治会ごとの防災マップに最終のチェックを加えましたので、五月下旬には阿用地区内全戸に防災マップが㈱エイテックさんの協力により配布されます。

㈱エイテックの協力で 防災まちあるきの報告会を開催



横手谷地内の県道玉湯吾妻山線沿いに「あおぞら保育園乳児分園」の工事が完了し、三月二十日竣工式が行われました。社会福祉法人あおぞら福祉会理事長の森山幸朗さんより工事関係者や竣工式参列者へお礼のあいさつがあり、職員によるお祝いの歌の披露がありました。

祝 あおぞら保育園 乳児分園が竣工



園内は、理事長のこだわりで地元産材が使用されているため、木の香りと温もりのする素晴らしい建物です。乳児の募集定員は三十人です。



三月十三日、消防阿用分団(分団長：森山修一)二十一名は、救命救急講習会を開きました。雲南消防本部より、森山、野津消防士を迎え、前半は心肺蘇生方法を、後半はAEDの使用方法を学び、緊急時に備えました。

救命救急講習会を開催



三月十六日、振興協議会は規約改正と任期満了に伴う役員改選を行いました。今回の規約改正は執行体制を明確にするため、役員は会長、副会長、事業部長、監査委員とし、従来役員であった事務局員(七名)は職員とするものです。併せて、社会部を廃止し女性ボランティア学級を事業部に昇格することとしました。

会議の最後に、役職員の改選を行い、三原文夫役員選考委員長より会長に永瀬康典氏を留任とすること

振興会臨時総会を開催

阿用地区では、サロン活動、アヨさん体操、健康講演会など従来から健康づくり活動として取り組んでいるため、市や県から「ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業」として、二十八年度に阿用地区で取組んでどうかとの話があり、この事業に応募することとしました。

を提案し承認を受けました。また、事業部長については会長から推薦を受けた十二名と事務局員は会長より委嘱を受けた七名(全員留任)が承認を受けました。

また、新年度から新たに行う事業について提案し承認を得ました。

①「田舎米づくり体験」
阿用地区内三十ヶ々の田んぼで、「つや姫」をエコロジー米として栽培。都市部のみならず田植、田の草取り、稲刈りなど三回のイベントを通し都市と田舎の交流事業です。

②「健康長寿の郷づくりをめざそう」
阿用地区では、サロン活動、アヨさん体操、健康講演会など従来から健康づくり活動として取り組んでいるため、市や県から「ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業」として、二十八年度に阿用地区で取組んでどうかとの話があり、この事業に応募することとしました。

五湯吾妻山線の川井峠で環境パトロールを行なう



三月十三日、生活環境部(部長：石原昭造)では、県道玉湯吾妻山線沿いの環境パトロールを行いました。各自治会から参加いただいた部員は清久下自治会内の川井峠付近に不法投棄された空缶、ペットボトル等を回収。ご覧の通りでビール缶など不法投棄は減るどころか増える傾向にあります。



三月十五日、阿用川水系水路組合連絡協議会(会長：矢壁正弘)は、神後田堰と大井手堰の改良工事について雲南市へ要望書の提出を行いました。平成二十五年十二月四日阿用川水系の頭首工堰の内、老朽化の激しい神後田堰と大井手堰の改良工事を雲南市に要望していましたが、二年間何も動きがないため再度、市に要望を行ったものです。

特に、福富自治会内の神後田

阿用川水系水路組合連絡協議会 市に対し堰の改修について要望書提出



堰は自然の岩盤を活用しコンクリートで覆ったもので、経年により(約七十年前)コンクリート部分が剥離、陥没するなど老朽化が顕著で、大規模な豪雨災害が発生すれば、堰が崩壊する恐れがあります。緊急を要するため要望を行いました。なお、参加者は次の通りでした。

水路組合 組合長：矢壁正弘
水路組合事務局長：朝日照男
神後田水路組合長：景山源栄
大井手水路組合長：鳥谷悦雄
阿用連合自治会長：三原文夫
阿用地区振興会長：永瀬康典